



玉の印箋同録

15
1386
1



15
1386
1



玉手間多々巻
初巻



○中臣壽詞 壹丁

○大安殿 六一

○立田川 七丁

○西のふのし八古へ孝ひの執りて 八丁

○悠紀主基 九丁

○水葦の岡 十丁

○コトコトふ紀を史 十二丁

○赤隆卿のこゝろ 十三丁

○儒者の皇國結事をハクニハクニシテシテスルスル 同丁

○古書どもとるり 六ヶ條 十三丁より 十九丁まで ○中浪門宣胤卿の記 十九丁

○吉田兼俱卿日本紀御談義乃事 廿一丁

○三社の託宣といふ物 廿二丁 ○神拜口傳といふ事 同丁

○玉のりま

○一



- 歌の清倉免がし文 廿三丁
- 鑑倉右大臣名みゆり後へる同丁
- もろこし文をもむきり 同丁
- 學問して道を知る事 廿四丁
- かきもん 同丁
- うらぶら 廿五丁
- おろしとをくしとニツほる 廿六丁
- 東宮をめぐひふゆづり 廿七丁
- 平戸記 廿八丁
- 四條天皇御謚のきど 廿九丁
- 後鳥羽天皇御謚のきど 同丁
- 順徳天皇の御事 三十丁
- 服姫の次第 三十一丁
- 天皇禮服御冠のきど 三十二丁
- 加賀國白山社の祭 三十三丁
- 漢意 ニケ條 同丁
- 清國殿鬼神をききむといへる 三十五丁
- 言をきくといふ事 同丁
- あしこぶ説を出す事 卅六丁

- かきぬみもむきり 三十七丁
- 音便の事 三十八丁
- 官名の事 三十九丁
- 位階の正從の訓の事 四十一丁
- 濁る事なき歌 四十二丁
- かきこくもむきり 同丁
- 古今集の歌の事 四十三丁
- 大神宮の茅葺カヤヅキの事 同丁
- かき國の官神事と喪事とをうりし事 四十四丁
- 杉の葉をぬきぬきし事 四十五丁
- 同郷の旗 同丁
- 同二所莊を建礼門院の事 卅六丁
- 五十日百日の事 同丁
- むらゝの事 同丁
- 実名をよぶをむきりし事 卅七丁
- 幸の如く病を歡樂といへる 同丁
- 清水の教月夜りの事 同丁
- 鑑倉中酒毒の事 同丁

○おろし

〇二

○北條時頼のいまはの袍 四十八丁 ○宗室親王の衣と法息存とせしもの分

合六十ヶ條

二新巻

櫛乃為景

○御即位後奉幣諸神祝詞 壹丁 ○圓融太上天皇紫野御子日の事 二丁

○長保元年女御入内屏風歌 四丁 ○内裏焼神鏡焼損事 五丁

○四角四堺祭の事 同丁 ○賀茂行幸の時の宣命 六丁

○法隆山より桂葵とる山の事 七丁 ○天皇御元服の事を山陵喜路の宣命 同丁

○寛仁二年十月立后節會の夜太閤法弘の事 八丁

○又立田川 同丁 ○水せ淵川 二十丁

○兩部唯一といふ事 十二丁 ○道ふかふとぬ世中法とる事 十二丁

○名をおこふ事 同丁 ○宗祇なりしが世中一所 十三丁

○かゝ國聖人の世乃祥瑞といふ事 同丁

○姓氏の事 二ヶ條 同丁 ○苗字 十六丁

○あざ名といふおの事 同丁 ○歌書の註を抄とぶつとる事 十七丁

○久安五年忠通公大政大臣宣命 同丁

○行成記書寫の事 十八丁 ○六條攝政基實公の棺の事 同丁

○神典のときざぬ 十九丁 ○神祇の歌 二十丁

○古今集月抄の事 廿二丁 ○風雅集の歌 同丁

○婦人よむ事との事 廿二丁 ○ついに言ふる後いかに人のけりぬ事 廿二丁

- 國を州といふ事 廿四丁
- 儒者名をみづる事 廿五丁
- 忌日祥月奉忌の事 廿六丁
- 鏡女王額田王 廿八丁
- 春記 三十丁
- 松島日記といふ物 同丁
- 攝津 卅一丁
- そりに社の字をせむ事 卅二丁
- くさや物語の事 同丁
- いせの國なる辛洲社 卅三丁
- ふみやまの今ふえやまの物語の事 卅四丁
- おのぶ物まふまの事 卅五丁
- あごのあごの事 卅六丁
- おのれの事 卅七丁
- 師の説く事 卅八丁
- わがまの事 卅九丁
- 五十連音をむらじに唱へる事 四十丁
- わがまの事 四十一丁
- わがまの事 四十二丁
- 五十連音をむらじに唱へる事 四十三丁

合四十八條

三の巻

- 五十師原山邊御井 壹丁
- あつらひの地とほろの事 七丁
- かゝ國ふて孔丘が名をいむ事 八丁
- 片衣小袴といふ物 同丁
- 宵柏みりかき事 九丁
- 揚弓といふ物 同丁
- 立花葉の湯 同丁
- 後柏原天皇崩御入棺の儀 同丁
- まゝ四界四角祭 十丁
- 船岡紫野御靈會 同丁
- 太神宮御蔭の事 十一丁
- 齊明紀ある童謡 同丁
- かゝ人の親のおとこをいふ事 十二丁
- 富貴を秘する事 十三丁
- かゝ人の親のおとこをいふ事 十四丁
- 富貴を秘する事 十五丁

- や〜〜 十六丁
- こが〜と〜 祖 十八丁
- 飛鳥の宮く 同丁
- みふふひと〜 雀 二十丁
- は〜の〜 廿一丁
- 選子内親王の御歌 廿三丁
- 諸社遷宮 廿五丁
- 新任國司廳宣神事と先^キと〜 同丁
- 福来病 廿六丁
- 天徳四年内裡焼亡事 同丁
- 神武天皇の御陵 十七丁
- お〜塚 十九丁
- 植村禹言と〜 人 同丁
- むろの本 同丁
- 神の清ぬを〜 廿二丁
- 伊勢例幣使發遣参向路次事 廿四丁
- 宣命料紙の色 同丁
- 歌みほけ〜 同丁
- 放生會音樂事 廿七丁

- 〜〜 同丁
 - 朝臣と〜 廿八丁
 - 太宰帥大貳の任ふ〜 廿九丁
 - 妖^セ字の〜 同丁
 - みちの〜 五月五日〜 三十丁
 - 火あやふ〜 廿二丁
 - は〜と〜 同丁
 - 下樋小川 廿二丁
 - 太宰帥字の〜 同丁
 - 夢を壁^{カベ}と〜 卅三丁
- 合四十六條

四の巻
こま〜れ草

○ 故郷 壹丁

○ 契沖やじおまをる菴 同丁

○ 何くもかき 三丁

○ 熊神籬 クニヒモロギ 同丁

○ 内人 同丁

○ 世の人 うしろのうへはくし 同丁

○ 節 せまき 八丁

○ 沙石集 ニケ條 十丁

○ 百首の歌 同丁

○ 清とりの洞のほろひ うら 十三丁

○ とも母 二丁

○ 者 テニハ とりの うら 同丁

○ 天壓神 四丁

○ 撞賢木 ツキサカキ 嚴之御魂 ミタマ 五丁

○ 崇神紀 ワクゴ 小兒の神託の詞 カムガリ 六丁

○ 佛の前乃 ほとけのまへ 物 もの 七丁

○ 前後と 前後 役 やく の な 九丁

○ 東屋の あづま 月夜 つきよ の うた 十三丁

○ 女一宮女二宮 女一宮女二宮 歌 うた 唱 うた 同丁

○ 十千の訓 同丁

○ 東鏡 あづまのかがみ 事 こと 二つ ふたつ の うた 十四丁

○ 鎌倉頼經將軍 かまくらよりえ の うた 同丁

○ 猿の さる 舞 まひ を うた 十六丁

○ 某男 ナニヲノコ の うた 同丁

○ 人の ひと 移 うつ る うた 同丁

○ 櫛 くし を うた 十九丁

○ 白氏文集 同丁

○ 廿日草 廿二丁

○ 甚 おそろ 葉 は の うた 同丁

○ 乙字 おと の うた 同丁

○ 阿 あ や あ の うた 十五丁

○ 四 よ 一 いち 半 はん 同丁

○ 唐船 からぶね の うた 同丁

○ 宮 みや と うた 同丁

○ 人の ひと 移 うつ る うた 同丁

○ 櫛 くし を うた 二十丁

○ 歌 うた 人 ひと の うた 同丁

○ 聖武天皇 せいぶてんおう の うた 同丁

○ 長谷 ハツセ を うた 廿二丁

- 信濃のぎんを時をととと 廿二丁
- 法親王入道親王 同丁
- 孝節王記 同丁
- 法親王のたぐひ 廿三丁
- 門院とや次御号のり 同丁
- 天皇法院号のり 廿四丁
- 高階為章の名のとと 同丁
- 歌合ふか人の名をかかまのり 廿五丁
- 金葉集のり 同丁
- 續詞花集 廿六丁
- 小野道風書る古今集 同丁
- 佐保姫の社 同丁
- 為兼つゝの歌のり 同丁
- 花園 廿七丁
- さらさら経書といふもの説よりくをるのり 同丁
- さらさら人の説あらはるる説よりくをるのり 廿八丁
- 西郡神道 三ヶ條 同丁
- 海國のそとに國はらるるのり

- 似るも同きとあるのり 廿二丁
- 初学は結つとをききとあるのり 廿三丁
- 弘の詞をえらぶべきのり 廿四丁
- 小大君 同丁
- 月草はるのり 廿五丁
- 持明院 同丁
- 土御門の内裏 同丁
- 大神宮の外宮 廿六丁
- 祝部成仲九十賀 同丁
- 清輔朝臣尚齒會 廿七丁
- 奏壽宣命の儀 同丁
- 大内政弘朝臣の歌 廿八丁
- 伏見天皇御即位の次第 同丁
- 齋宮諸司 四十三丁
- 古言法濁考はるのり 同丁
- 兼好法師が詞のあはらるるのり 四十五丁
- うたをほらるるあはらるるのり 四十七丁
- やらるるのり 同丁
- 学者のあはらるるのり 四十八丁

○ 説小媛田彦神の事 四十九丁

○ 名羽雜宮 五十丁

○ 土佐日記の附註 五十二丁

合八十五條

五の巻

枯野のまゝ

○ 熊澤氏の神典を論ずる 壹丁

○ 漢籍と神典とのちがひ 五丁

○ かゝるゑ 同丁

○ 中からあとの諸王おやりし事 同丁

○ ほむきびの神 同丁

○ あやしき事此説ニテ條 三丁

○ 平太政大臣の歌 六丁

○ さかやういふ言ひ早字とてまじりし事 七丁

○ 車比紋の事 同丁

○ 老意のこゝ 同丁

○ かんでのち路 八丁

○ いくでといふ事 同丁

○ 物を清むる水の水をそとく事 同丁

○ 菩薩樂 同丁

○ むさしといふ事 同丁

○ ほのかき 同丁

○ おこもはいらま 十二丁

○ 大神宮小諸人のまじりし事 同丁

○ 彦彦 同丁

○ さくかしの字 同丁

○ 古今神傳換 同丁

○ 太上天皇の神名治 同丁

○ とらるん 九丁

○ かゝらうといふ事 同丁

○ 三郎 十丁

○ 羽のささくゝ花 同丁

○ ちいなる女神の社まゝの事 同丁

○ 狂歌 十二丁

○ 機タのまじりし物 同丁

- 江戸の地名（下） 同丁
- 鴨立澤 十三丁
- ちくちやく 同丁
- ふとん 同丁
- えびまき二郎 十四丁
- いせ物語の中は歌 同丁
- いせ物語の名本（下）ニヶ條 同丁
- 志のぶ（下）廿七丁
- 右近（下）場の（下）廿九丁
- 志（下）廿丁
- 東宮の御息所（下）東宮の女御 廿二丁
- いせ物語（下）廿四丁
- いせ物語（下）廿四丁
- 業平（下）廿三丁
- み（下）廿四丁
- 和泉（下）廿四丁
- 考羽殿（下）廿五丁
- 立田山（下）廿七丁

合四十七ヶ條

六の巻

かゝある

- 書（下）二丁
- ま（下）三丁
- 業平（下）同丁
- 菅家（下）四丁
- 佛書始 五丁
- 寛治五年（下）同丁
- 賀陽院歌合 六丁
- 鳥羽殿（下）同丁
- 肉侍（下）八丁
- 南殿（下）九丁
- 蘇我（下）十丁

- 一條天皇かき進ませ給ひて厚法を教ふる御筆此物のり 十二丁
- 延久の御世の始めて記録所を考へてしり 十二丁
- 安徳天皇の御事 同丁
- 後鳥羽のよみ人 十三丁
- 縣居大人の傳 同丁
- 花のきごゑ 十五丁
- 神明鏡 十六丁
- 笛の孔 十七丁
- 寢づくとりの物に鍵あり 十八丁
- 持佛堂 同丁
- 天皇の御前にお直り祈せしり 十九丁
- さぬきの國の山お谷あるやしきあり物 同丁
- 神社と宗廟社稷をいり 廿二丁
- 人とたより 廿二丁
- 東京西京 同丁
- むすし女御の位階 同丁

- 八本 同丁
- 客殿 小宮 同丁
- 百段糸掛智大和大路 和讚 漢讚 埴とち 廿三丁
- 脩明門院の強盜御入りしり 同丁
- 大名 廿四丁
- 吉備大臣の名 同丁
- 國造 廿五丁
- 築紫君石井イハキとち 同丁
- 延喜式五十卷より十卷を
神祇式ありしり 廿七丁
- ちりきふ 同丁
- 万葉集ふてしりし辞ふ義之と大王と書ゆり 廿八丁
- 阿のきぬ 三十丁
- 夢のふき橋 卅一丁
- 節下大臣 卅二丁
- 浅草といふ色 同丁
- 近江國の君が畑といふところ 同丁
- 志賀の山笠總のり 卅三丁

- さぬきの國戸口の敷 世五丁
- あゐとち 同丁
- 本ゆゑあはる様 世六丁
- い〜氷 同丁
- 峠 同丁
- く〜く 世七丁
- まのいろはをかろす 同丁
- 玉あ〜ま 世九丁
- 古き名どころをよぬるす 四十二丁
- 俵とつゝも〜 同丁
- 免うか〜 同丁
- ほ〜しれをぬるす 同丁
- 〜〜〜 是を〜 同丁
- 鶏を〜 同丁
- 火〜 世七丁
- 岩〜 同丁
- 神今食 世八丁
- か〜 四十丁
- 名なき里れ〜 四十四丁
- 朔日の礼 同丁

- 祇園會お山様 四十五丁
- 合六十七ヶ條
- 七の巻
- 姉たちあ〜
- あ〜集一の巻を〜莫貴圓鄰の歌 壹丁
- 神社の祭る神を〜 二丁
- おのう仕を〜神を〜 四丁
- 皇孫天孫と〜 同丁
- 直綴と〜 同丁
- 後架 同丁
- 天の下れ改神を〜 同丁
- あ〜紙 五丁
- 百箇日 六丁
- 仁木杉景法師が〜 同丁

- 手代 同丁
- みづのあきほりしり同丁
- 綾小路中将敦有の屋のり 八丁
- 人くぬり 同丁
- 人をあてて様といふり 同丁
- 皇親の祿物を先賤價に賣るり 同丁
- 神とておぼゆる人の形がふりしり 九丁
- よの人の神社を物とびきりしり 十丁
- 和泉國大鳥神社 同丁
- 唐の國人のり 國あるりしり
- おんごのり 國のり 十三丁
- 新猿樂記徳國の土産 同丁
- 大徳寺住持論旨 同丁
- 手拍敷のり 十四丁
- 道風朝綱書勅判のり 十五丁
- 美材草神 十六丁

- 伊勢大御神の佛をきりしり 同丁
- 文倉 同丁
- 崇徳上皇頼長公の代りしり 十七丁
- 不如關礼佛之勤全敬神之忠の詔 同丁
- 陸奥國五箇莊奉貢の事 十九丁
- 祈奉祭の猪のり
- 女御多子名字のり 廿丁
- 天皇御元服の時のり 同丁
- 頼長公の印のり 廿二丁
- 物とふんをきりしり 同丁
- ちみせんといふ物のり 廿四丁
- 石見の海あるり 同丁
- 朝鮮の人のり 廿五丁
- ある人のり 廿六丁
- さばがのり 同丁
- 土佐國ふ火蘇をり 同丁
- やのり 同丁
- ほやのり 廿七丁

○ぬぐーくつ 同丁

○石ぐーくつ魚 同丁

○淡海公と天智天皇の海子ぐり説 同丁

○ちほふのほー 廿八丁

○天竺川 同丁

○佛名の野伏づけ綿 同丁

○法代ぐれ大嘗月日徳紀主基國郡廿九

○肥後の阿蘇大宮自家菊地家のり隈府孔子堂の事廿二丁

○御即位親王代禮服 廿四丁

○葵沖なりじお奉のいーぬ廿五丁

○祇園の西門の前お大路の在廿六丁

○おの道取をて人侍廿七丁

○そろこーお老子の説廿八丁

○道をーくおいぬ廿九丁

○香をーくいぬ卅丁

○香をーくいぬ卅丁

○お海くーお名をいぬお物まゝ人の佛法を信じーくしる 同丁

○世の人佛のさやの卅一丁

○年おおのさやの卅二丁

○催馬樂くーお名の事 同丁

合六十五條

ハ乃巻

お秋の下巻

○あやに古の日記のーこれをも 壹丁

○まほひのほろ又わき 二丁

○言の指り本卅三丁

○おまお又そのいぬ卅四丁

○おまおの指り本卅五丁

十五 五三のり 六丁
 ○ 今の人の子文部のり 七
 ○ 歌を編むのり 同
 ○ かもくのり 十丁
 ○ 用指 同丁
 ○ 枕詞 同丁
 ○ 筑前國續風土記 十二丁
 ○ 言蘇のり 十三丁
 ○ かんあまのり 同
 ○ 男の名のり 十四丁
 ○ 出定後語のり 十五丁
 ○ 萬葉集のり 十六丁
 ○ 萬葉集のり 十七丁
 ○ 某のり 十八丁
 ○ 某のり 十九丁

○ 周公旦のり 二十丁
 ○ 蘇谷の成章のり 廿一丁
 ○ 某のり 廿三丁
 ○ 將棊 同丁
 ○ わらのり 同丁
 ○ 續本 同丁
 ○ 巻のり 廿四丁
 ○ ちやのり 同丁
 ○ 貴下 同丁
 ○ ぱのり 同丁
 ○ せのり 同丁
 ○ ひのり 廿五丁
 ○ 端のり 同丁
 ○ 一日のり 廿六丁
 ○ 針のり 同丁

- ぬもく虎 同丁
- むごのこみ 同丁
- 下向 同丁
- 東宮御養治 同丁
- 書學五書とりこみ 廿九丁
- 十二むく 同丁
- やうちんもん 同丁
- 咄 同丁
- 大嘗ゆきまきの國 同丁
- 降誕 まふあそぬ 同丁
- 杉原の紙 廿七丁
- たやまのこみ 同丁
- 但馬國の城の崎のいでゆ 廿六丁
- 山名 同丁
- 三ツを抄く 三十丁
- 清家文とりこみ 同丁
- 伊勢勅使のせも人の教 廿二丁
- 柳箱 同丁
- 明日日 廿三丁
- 八的 同丁

- 祭ふ臨とて神まを定むる 同丁
- あそ人のいふあそ 廿四丁
- 厨子 同丁
- 菊の清文 同丁
- 生葉瓜 同丁
- 棧敷 同丁
- とろ加業 同丁
- きぬくぐりをぬく 同丁
- 國守神拜 廿八丁
- 中國 同丁
- 万葉集小見とら和氣の稱 廿三丁
- 上東門院 廿五丁
- 梵語 同丁
- 道者 廿六丁
- 五石形子の釜 同丁
- 佐渡國より金のあそ 廿七丁
- かちごまみ 同丁
- まうらうらんぬん 同丁
- そごいもろぬ 同丁
- あそむくぬ 同丁

- 又吉備、大匠北名 卅九丁
- 法袋 四丁
- 形んぞ 同丁
- おち流き 同丁
- 柳枝松枝を文書せしむる 同丁
- 癩病をかゝる 同丁
- まきとほ界名のさし 同丁
- かぶぶとふ朱印をおさる 四十四丁
- 宿老を名を 同丁
- かゝりおとろ 同丁
- 狐はらふ 同丁
- 後鳥羽天皇御諱のよみ 同丁
- いろやいの福 同丁
- まろし 同丁
- 姫君おのり天中此君といふ 卅四丁
- 皮子 四十三丁
- 十二支のじと美といふ 同丁
- ろくかきらく 同丁
- 志ぬると病死といふ 卅五丁
- 獅子舞 玉の鼻 同丁

- おひふるおよふ 四十六丁
- あゝ 四十七丁
- とどぬき 同丁
- きびとりの鯛 四十八丁
- 人の立ちしめしめを掃くを忌む 同丁
- まきとほまじる 同丁
- 只状 四十九丁
- 重荷ふ小付 同丁
- 鏡のうらふ鶴をいつく 同丁
- 文身の訓 同丁
- 足袋 同丁
- あゝ 同丁
- 祿 同丁
- おみのほとあを 同丁
- 用といふ 同丁
- 北野の清浄といふ 五十丁

合百十八ヶ條

九の巻

花乃雪

○今様合 壹丁

○水世御殿造り之御わら海一 二丁

○みちちのくの西を名取 同丁

○后妃内親王を院号せり 同丁

○そとにわりの宿 五丁

○大姫の石佛 同丁

○あやみき令といふ宿 六丁

○書出 同丁

○春日社みづきと廻廊を造りたる事 同丁

○新勅撰集れる事 同丁

○正堂正寝 四丁

○裾のせは乃り 同丁

○茶椀 同丁

○みやくぬ 同丁

○かこにねみ 同丁

○かこみせん 同丁

○伎藝ふ大夫といふ名 同丁

○柿の本葉のふ 同丁

○桃花坊の婦をいふ名 同丁

○いそのくち 十丁

○ふりまの浦吹よめを海 同丁

○かざりき山を名取の洞 同丁

○黒牛海を名取白糸磨山 十四丁

○紀の國れ名をいふ事 二十丁

○道のい免あや 同丁

○契沖が歌をいふ事 同丁

○朝所 七丁

○かざりき山を名取の物 同丁

○玉津を名の神 八丁

○紀の國れ名取 同丁

○大姫の神をいふ事 十二丁

○紫の名をいふ事 十三丁

○妹背山 十六丁

○周武王死する事 成王十三丁 廿四丁

○道 廿五丁

○あやみき令といふ事 同丁

- あやうる 同丁
- あやうる 同丁
- 碓がえ 同丁
- 碓がえ 同丁
- きくら 同丁
- きくら 同丁
- 引出物 同丁
- 引出物 同丁
- 相撲前二日の儀 同丁
- 相撲前二日の儀 同丁
- 百葉編 同丁
- 百葉編 同丁
- 神を祀りたる日 同丁
- 神を祀りたる日 同丁
- 合ふ十二條
- 合ふ十二條
- 十の考
- 十の考
- 山菅
- 山菅
- 物ほまびのころし 壹丁
- 物ほまびのころし 壹丁
- 古くつづねられたるもの 同丁
- 古くつづねられたるもの 同丁

- あやうる 同丁
- あやうる 同丁
- 碓がえ 同丁
- 碓がえ 同丁
- きくら 同丁
- きくら 同丁
- 引出物 同丁
- 引出物 同丁
- 相撲前二日の儀 同丁
- 相撲前二日の儀 同丁
- 百葉編 同丁
- 百葉編 同丁
- 神を祀りたる日 同丁
- 神を祀りたる日 同丁
- 合ふ十二條
- 合ふ十二條
- 十の考
- 十の考
- 山菅
- 山菅
- 物ほまびのころし 壹丁
- 物ほまびのころし 壹丁
- 古くつづねられたるもの 同丁
- 古くつづねられたるもの 同丁

あやうる 同丁

○成湯が誓われ言又周の武王同丁

○當の字のほまびゆ又此を今もいふ 廿七丁

○此のふ異なる字のほまび 廿八丁

○誤り 廿九丁

○石見國なる志のほまび 卅二丁

○口ほまびといふ 卅四丁

○能といふ樂 卅五丁

○書紀の本書一書のほまび 同丁

○美神と記したるほまび 卅七丁

○檜垣姫のほまび 卅八丁

○よもやほ 同丁

○同丁

○八百ある神といふを書紀の八十

○人名を文字喜ふのほまび 同丁

○人名を文字喜ふのほまび 同丁

○同丁

○同丁

○同丁

○同丁

○同丁

○同丁

○同丁

○同丁

○同丁

○同丁

○同丁

○同丁

○同丁

○同丁

○同丁

○同丁

○同丁

○同丁

○同丁

○同丁

○同丁

○同丁

- 鬼といふ物 同丁
- ある書あるをわきまきり 四丁
- 和名抄といふ名 六丁
- かぐろ 七丁
- 譬といふものなり 同丁
- 物をいふものなり 八丁
- 詩のいふもの人の詞ニツ 同丁
- 清子左三條家冷泉家のもの 九丁
- 長清子の歌 十二丁
- 源氏物語をよむるもの 十三丁
- 源氏中納言の墓又時雨の真珠 同丁
- 言旨法師の忌日 十四丁
- 定家申納言の符 同丁
- 世徳の切なる夫婦の間おとこといふ漢人の詞 同丁
- 李花集の詞歌 同丁
- 十五經 十五丁
- 十王經 十六丁
- さくら家のものなり 十七丁

- おのが悔辱れ 同丁
- 出雲風土記意宇郡の名の 同丁
- ゆゑをいふ文 十八丁
- 出雲國なるもの 廿五丁
- 師をとるといふもの 廿八丁
- もろをいふもの 同丁
- 多んざく 廿九丁
- 形あるもの 同丁
- なほあるもの 同丁
- 皇祖母尊 同丁
- 畿内七道のみ又郡目 卅丁
- 吉志の舞 卅二丁
- 鈴奏 同丁
- 荷前 卅三丁
- 改年號 同丁
- 改錢 同丁
- 後成つて定家卿の書給へるもの 卅四丁
- 定家中納言れ 同丁
- 高野山 同丁

- 佛法僧といやる 同丁
- 親王御元服袍の文又色世五丁
- 浅黄といふ色の世六丁
- 弘の題此望字の世七丁
- 連歌の花下といやる 同丁
- 賀茂社の神主祿宜権祿宜 同丁
- 人の出さし跡を掃くを世九丁
- 日前國懸社遷宮日時 同丁
- 節刀此事 四十丁
- 多可世五丁
- 親王御元服袍の文又色世六丁
- 弘の題此望字の世七丁
- 連歌の花下といやる 同丁
- 幸崎の松 同丁
- てはく 世八丁
- 春日社の預り 同丁
- 賀茂行幸社司勸賞 同丁
- 百座被 四十二丁

- 長寛三年齋王帰京 四十二丁
- 歌會 同丁
- 物どりの世九丁

合五十九條
十一の巻

- 告文清書世多寺家の傳 壹丁
- 諏訪の縁起繪 三丁
- 三萬六千子の祭 五丁
- 田舎の神社世二丁
- 室町殿の判の字世六丁
- 和琴 同丁

- 神社の湯立 七丁
- 多武峯此額の事 同丁
- 竟孝大僧都の事 八丁
- 志摩國の名どころ 同丁
- 預波國ふ古へ牙竿を貢する事 九丁
- 人のうほまけは死後の事 同丁
- 皇極經世書といふかゝる此説 十丁
- うむまびの非車此歌よまき事 十二丁
- 中間といふ事 同丁
- 定家卿の事を思ふ事 十三丁
- 強装束衣紋男此眉をぬき髪後とまみ齒を染る事 同丁
- いとゆる御所詞 同丁
- 此稿の借御のやう 十四丁
- 四豆の物供法は備へる事 同丁
- みちれくの名所 同丁
- 参入音聲退出音聲 十五丁
- 神樂此調子 同丁

- 東遊の起り 同丁
- 筆此白朝此傳の事 十六丁
- かゝる事 同丁
- 琴の事 同丁
- 又神樂の調子 同丁
- 堀川天皇神樂を多く近方り
- 傳へさせ給ふ事 十七丁
- 舞樂の傳り事 同丁
- 樂の道の書ともの名 同丁
- 肥後國の神樂歌 十九丁
- 後の事 廿丁
- うほまけの事 廿二丁
- 肥後國阿蘇神社 同丁
- 神祇官の坐入神の御靈實の焼亡事 廿二丁
- 三部神經といふ偽書の事 廿三丁
- 舊事大成經といふ偽書の事 同丁
- 春日社宮社の神樂の歌 同丁
- 上つたも一種の文字をたんとする事 廿四丁



○をこ繕 廿五丁
 ○靈屋 廿六丁
 ○ふぶひとり魚の名 廿七丁
 ○古事記傳の六の巻に入道まじり 同丁
 ○弟の字に安礼衝とある詞 廿八丁
 ○是くもさるるりりり 廿九丁
 ○刀の目貫とりり物 同丁
 ○人のいへる言 卅四丁
 ○そくくくくく物とりりり 卅五丁
 ○茶の字 同丁
 ○どら島 同丁
 ○口をよ尻 同丁
 ○假字のさへ 同丁
 ○皇國の字者おあやき 卅八丁
 ○萬葉集とあるおむくくくく 卅九丁
 ○おそくくくの弦 同丁
 ○わらくくく此國の王商とりりり
 ○高野の玉川のうく 同丁
 ○如意とりりりりりりり 卅六丁
 ○幸生父母 同丁

○あまごころのえ 同丁
 ○かくくく 卅七丁
 ○ゆくくくくかこびく 同丁
 ○八丈絹 卅八丁
 ○三十六町を一里とみるく 同丁
 ○合七十一ヶ條
 ○十二代喜
 ○山姥き
 ○又嫁背山 壹丁
 ○稱唯 二丁
 ○後鳥羽天白王踐祚即位の御事 卅三丁
 ○はくみく又つらなくとりりり 卅五丁

- 聖るらぶし 六丁
- 二月此初の午日親善を請ふ事 同丁
- 八人のやまをいふ 同丁
- 時をり 同丁
- 十八日此のやまをいふ事 同丁
- 夜をいふ事 同丁
- 風引くる夜咳をいふ事 同丁
- 此の始ふ病後飲食をいふ事 同丁
- 檀紙と云檀紙とい別ある事 同丁
- さう申る夜はかきかき事 同丁
- 幅をいふ事 同丁
- 扇をとって神紙をかむ事 同丁
- 七月十五日と申えらる事 同丁
- 綿子 十丁
- 名簿おこしり 同丁
- 鼻をいふ事 同丁
- きざし 十二丁
- のぞく湯で出さるき例 同丁
- 俗言にのこのやまをいふ事 同丁
- 後此御定をいふ事 同丁
- 神社をいふ事 同丁
- 歌ふ六義をいふ事 同丁
- 事代主神と建御名方神 同丁
- 御所様大御所 十六丁
- 平家物語をかきかき事 同丁

- 長持といふ物 同丁
- 此かやうの事 同丁
- 勅旨田 十一丁
- 式神をいふ事 同丁
- 名簿おこしり 同丁
- 鼻をいふ事 同丁
- きざし 十二丁
- のぞく湯で出さるき例 同丁
- 俗言にのこのやまをいふ事 同丁
- 後此御定をいふ事 同丁
- 神社をいふ事 同丁
- 歌ふ六義をいふ事 同丁
- 事代主神と建御名方神 同丁
- 御所様大御所 十六丁
- 平家物語をかきかき事 同丁

○開帳といふ事 十七丁 ○八朔の礼尾花の粥 同丁
 ○魚けきーみといふ物 同丁 ○年のくれれ煤拂 十八丁
 ○百年忌 同丁 ○三體侍談義はるか物話といふ事 同丁
 ○借家 同丁 ○客殿 同丁
 ○童名ぬ某丸といふ事 同丁 ○人をとて貴殿といふ事又
 某國の住人といふ事 同丁 ○神郷公郷 十九丁
 ○ほりしれ酒といふ事 同丁 ○朝鮮國を如藤清の如人
 といふ事 同丁 ○汁といふ事 二十丁
 ○拙者 同丁 ○入麩 同丁
 ○愛發といふ名のよみ 廿二丁 ○しり神といふ事 廿三丁 同丁

○物やういふ事 道のいふ事 同丁
 ○八景といふ事 廿二丁 ○よはむの額ぬを多く集
 むる事 同丁
 ○金銀やういふ事 廿三丁 ○麻マ間マと佐サ伎キとの差サ又後ノチを佐サ伎キ
 といふ事 同丁 ○大嘗會の齋場 廿四丁
 ○吉野北水分神社 廿五丁 ○宣中納言此歌の事 廿六丁
 ○大被臨時の建礼門此歌の事 廿七丁
 ○妻をむく海城此歌の事 同丁 ○わきくく此歌の事 廿八丁
 ○本ユ綿フの事 廿九丁 ○ユ事フの事 三十丁
 ○伊勢大神宮御事を此歌の事 同丁

○十二年北山より 同丁 ○（以下略）

○第五の書ははやくくみ深のよやくに 世三丁

○雪草を安物めを書くもゆるるるに 同丁

○称唯の音 世三丁 ○雙丘の東の墳は修後極事

らまうし事 同丁 ○有智子内親王 同丁

○深草天皇の御事 世四丁 ○童相撲 世四丁

○神社修造の勅命 世五丁 ○焼尾荒鎮といふと被除神宴は

酒食儀束め被物を責るる事 同 ○光孝天皇北御世より歌のよき

又おこもるる事 世六丁 ○武徳殿前競馬のまげりよの

時小神樂儀奏せしより 世七丁 ○金葉集外花の歌のよき 同丁

○飛鳥神社の御事 世八丁

合八十五條

十三の巻

おそむる事

○万葉集に不字と忌書をく書る例 二丁

○同集に必^スなりたるものいふを不在字とある事 三丁

○嶋 同丁 ○（以下略）

○同集に^{イナト}生刀をあるとくつる例 五丁

○文字と流く書る例 六丁 ○白馬御倉 同丁

○万葉集に^{イナト}あえぬがふといふ事 七 ○梅の花に^{イナト}歌をよむ事 八

- 萬葉集なる藤原宮之役民作歌 同丁
- 平城天皇此神名 十丁
- 歌合とつる此くまり 十二丁
- 伏見の會 同丁
- 志多世海より 同丁
- 首柏と牡丹花と号する 同丁
- 清輔初長尚齒會 同丁
- 九月十三日此夜月とあづる 同丁
- 宗祇法師の傳 同丁
- 文治元年四月神鏡神靈事ふかへり入らせ給ふ 十四丁
- 影と子事ふきし 同丁
- 右兵衛馬場 同丁
- 金葉集小輔に親王と三宮と
- 式乾門院の 十二丁
- 後陽成天皇此御院号此 同丁
- 七夕此歌ふきかふ此夜

- 寶劔の事 十五丁
- 貞和四年に西海ふ沈く寶劔出る事 同丁
- 神鏡燒損の事 十七丁
- ふくまのいふ事 同丁
- やねまのいふ事 同丁
- 九條廢帝 同丁
- 志づらなる山林波まきりといふ事 廿一丁
- おのづ系此やどりなる事 廿二丁
- 鳥羽法皇崇徳上皇熊野御幸御出立此事 廿三丁
- 興福寺維摩會講師の請 同丁
- 又寶劔の事 十六丁
- 大炊殿を洞院と改めたる事 十八丁
- ほるまのいふ事 十九丁
- 鴨野類のいふ事 同丁
- 臣此王を娶る事 二十丁
- 鴨河を掘る事 同丁
- 筑紫の觀音寺燒止の事 廿四丁

- 八十島祭の使 同丁
- 六角堂焼亡 同丁
- 名羽の勝光明院の寶物の事^{廿五} 同丁
- 遠江國より大社宮小神沖衣袋織てなる事 同丁
- 出雲國意宇郡神魂神社 同丁
- 出雲大社の御事 廿六丁
- 同社金輪の造營壯圖 廿七丁
- 讚岐國人女とよき葉袋
- 信濃國の或村に神事に
- 嵯峨天皇四十御賀 同丁
- 越前國荒道山^{アラチ} 同丁
- 長祿の令いぬやまへはぬこころ 同丁
- 奉早月日とあやふきぬを例 同丁

- 毛ぬこころの御 廿二丁
- 志保り 同丁
- ぬこころの御 同丁
- 志の免の祝 同丁
- 祿まみ色 同丁
- 親王宣旨の書やう 廿二丁
- 十を治るといふ事 同丁
- をやこころの御 同丁
- 天文博士連歌 同丁
- 物の次第を一番二番といふ事^{廿三}
- 親王三國太守の御事^{廿四}
- 諸王の事 廿四丁
- 菊根の事と菊荷の事^{廿五}
- 花の宴 同丁
- 芳宜花の宴 同丁
- 佛佛の御事^{廿六}
- 灌佛れと御り 同丁
- 更衣 同丁
- 女御 廿七丁
- 唐法小儀へき詔書の事 同丁

- 竟宴 卅八丁
- 東宮雅院 卅九丁
- 大歌所 同丁
- 上小叙せりるる 四十丁
- 雅とるるむるる 同丁
- 天ふ配せりるる 同丁
- 常陸國なる大洗磯前神 同丁
- 津島くふ用ひ給ふ 曆の事 同丁
- 御雲會 四十三丁
- 白人 シロヒト 同丁
- 神社の號某明神といふ 同丁
- 又八十島の祭 同丁
- 天下此諸神おへて正六位
- 神社をなうしとて佛の
- 漢より此天神の祭 天皇家
- 子日此宴 四十二丁
- 志ちまつ此濁音の事 四十二丁
- 方違の事 四十四丁
- 私主 四十五丁

- 神社を練子宮と申はるる 四十 同丁
- 應天門朱雀門羅城門の名はる 四十六丁
- 七高山といふは 同丁
- 鴨河の韓橋 四十七丁
- 庭をを多かきむるる 同丁
- ぼりなれ橋 同丁
- 遍照僧正七十賀此宴と給はるる 同丁

合百五條

十四の巻

- 君手弒なり父を弒せりるる 此海 壹丁
- 神小祈して白皇子を求め給ひ 御事 二丁

- 百濟國として天降る國成建路へる神を祀りし事 同丁
- あまのこまを神子と詔給へる事 三丁
- 美國の使り神孫を給ふ事 同丁 ○神社の位階なり 四丁
- 左右京朱雀路朱雀門大極殿瓦ぶき 同丁
- 南殿 同丁
- 書紀欽明天皇御卷の事 五丁
- 風土記のおり 同丁
- 婦女位階の制 六丁
- 柑子とてめて液を煮る事 同丁
- 経籍 七丁
- 裳瘡 同丁
- 諸國郡地圖 同丁
- 五日此節菖蒲縵 同丁
- 味醬 八丁
- 萬葉集の事 同丁
- 夜寝を起る事 九丁

- 人の名此和字の事 九丁
- 一と一りありて人のよき事
- 今の人々の名なり 同丁
- 紅梅の假字 十丁
- 鹿をかせたとし 同丁
- 牛と殺して漢神を祭りし事 同丁
- 氏族を腹といふ事 同丁
- 孔丘と文宣王といふ事 同丁
- 姓の如くねぶ骨字を書きし事 十二丁
- 伊勢大神宮寺 同丁
- 皇太子伊勢大神宮寺法隆寺の事 同丁
- 交野北御將 十三丁
- 新撰字鏡 同丁
- 後撰集拾遺集の事 十四丁
- 奈良の大佛像より流るる事
- 仁壽殿顛倒の事 同丁
- 美福門院石清水宮小神典を献じ給ふ事 同丁

- かろれみのうろく 同丁
- 糖の事 四ヶ條 十六丁
- 浦 十八丁
- 澤文おたるせはるみぢりふ
- 信ぢりふ 廿三丁
- 日食月食 同丁
- 世の申此葉の申ハ皆神は清きことなる事 廿四丁
- 聖人をそむる事 同丁
- ト巻 廿五丁
- 華夷 同丁
- かろ人の語うろく 同丁
- 論語 五ヶ條 廿六丁
- はゆる 廿七丁
- 御字 廿八丁
- 人のうろく 同丁
- 紙の用 廿九丁
- 古より後世はまされる事 同丁
- 某の家とりたるを某此亭やかと事 三十丁

- 名所 同丁
- 混本 三十一丁
- 多と人 同丁
- 又きや人 同丁
- されはる 三十二丁
- 教誡 同丁
- 孟子 二ヶ條 三十三丁
- 如是我漸 三十四丁
- 道教 同丁
- 佛道 三十五丁
- 世の人 同丁
- 宋の代 同丁
- 神獸神鷹 同丁
- 鄂羅斯といふ國も 同丁
- 控嚙爾といふ國 三十七丁
- 天 三十八丁
- 國を治むる 同丁
- 板坂ト齋物語 三ヶ條 三十九丁
- 漢籍の説と皇國の古俗説との事 同丁

○饌ニケ條 四十二丁

○又同丁

○伊勢國 同丁

○米粒を佛汁ほそるをどしどし

ちりへる事 四十三丁

○世の人世ごころをいかにいかに

よりとまらぬ 四十四丁

○假字 同丁

○かゝ國の詞法を 四十五丁

○佛經の文 同丁

○神代名ぐみ 同丁

○道 四十六丁

合九十二ヶ條

わのにほちけもれせられぬる玉かけま
はまかきほやよめとすれなる書け申尔
んせまけるふし〜ちや物ふうけ〜
せえんらけけるや〜れい多勢らふ〜
は勢屈きちの〜ぬま〜はをま〜して
又たふ〜れの〜ふれて見〜
志多海の中ふ〜あるは〜の〜

古きハかゝる古きものやまゝのりまゝの
くねやまや心ふのけて思ひよられたる
次ちそ又多くかふやふきまゝくろくや
ゆもかゝるねはれをねあしふいふ
し魚志のふ人れよみんむすをゆは
れ々係ありけり初葉菜を思ひまれを
おてはみねのら清く出おのれけるをば

てね書はらしく椿ふちめて十五のひらよ
まかきさしていさるゆ下のたのまふてあ
ゆねるを翁うせられてねちうねしはき
て十回巻や志多ふふれ書の巻くね
をさしく出はれてささかきさるね
みむ人のふあまのらむはまふやて又
一卷やちやねはし一巻の三巻ハ寛政六

身をりすたたるを生活に
三巻をり板尔ちらせして此度尔て五巻に
あはせて十五巻にふそたれ已ける文化
八年十二月八日本居萬麻呂

玉後間後書

能登能大人の此玉の考案はかた書考の言を
せそわざいかに出給へ留ふみそ女もあまも
よる生物の注釋あやのやうに考へたるは事なる
者みふ—母あまの文—ごう古事記の傳を
はど免何之精の書も何は—後ふを
心やり尔事尔まのせかき何なる何なる
はらみ尔事と有け—志のはあまの世の

若祢の葉一ぼさみのあざひりは阿くヤらま
け里萬ふいありふき人の志わがふてきは
皇神のそや歌まひの筋りも公ば——入
まむ人結明之程もてあ——て抄のいあは
倍くかちやてんせ——今世さあぐ結ぬき
うさを引出てそまごのうすもあまみあ
まこのせ給ふ所ふ若也守家ま——守子也母乃
おそい——ふかあま出けるよもあか物づありや

遠き國くよま志あぬい東て何事あそそのあひ
明くむ留人な物づありあやの中ふ免考し
お——些やあぬ給へはあやまきを母あて
考あゆまはる此玉う考るんかまあはは
道多か程なき——てんははく——もはは
花もあまふよまはあびごせ母又か物母の
何事この物まあま母まあぐいああかさ
ふてげふとあはは思ひあふんああは

此もかまがーは多此多美くもはあかたふくは考く
 るはまうをせむを給すは存母口たうら物うあり
 給ふやうふて此巻をさうりえー身あ多びふ有信ふ
 名のうみ大人の清許ふまがひてひまきうせ給ふ
 うあやうこまわーてまうくうまうの家むまうまう
 いまうの書持ててまうまうの志ありかまうのまう

文化九年正月

尾張 植松



尾陽東壁堂製本畧目録

和書之部	萬葉集畧解	三	伊勢物語	二
古事記傳	古今集遠鏡	六	玉勝間	十五
曆朝紹詞解	後撰集新抄	六	玉くし	一
神代正語	同別記	一	ほまみの鏡	二
神壽後釋	新古今集抄	五	江戸職人哥合	二
直毘靈	美濃の家苞	五	御遷幸長哥	一
萬我の比禮	同折添	三	八日抄日記	一
葛花	尾張の家法と	九	地名字音轉用例	一
三大考	源氏物語手枕	一	天祖都城辨	一
冠位通考	三代調類題	六	和歌五百題	二

羣書治要	四書集註道春点	同上紙	同片假名附	文選李善註	毛詩國字辨	孝經鄭註	同指解	服膺孝語	國語定本	莊子因
明季遺聞	牧民忠告解	傳子	常語藪	物數稱謂	律數楊權	介翁茶史	六諭衍義大意抄	詩集之部	三野風雅	
誹書之部	枇杷園發句集	同類題發句集	同三月集	同麻荊集	同雀芝集	同五七集	同鳶の眼	同歌日記	同菴の犬	同法々花經
四	一	一	二	一	二	二	一	一	五	一
經書之部	羣書治要	四書集註道春点	同上紙	同片假名附	文選李善註	毛詩國字辨	孝經鄭註	同指解	服膺孝語	國語定本
七	十	十	四	十	十	一	一	一	六	六

劉向說苑	同考	同參註	同上紙	同列仙傳	韓文起	今世說	世說音釋	左傳蒙求	星渚堂對問	大學參解	論語參解
暢園詠物詩	日下新詠	晞髮偶詠	畸人詠	先友詩抄	寒林刪餘	金山稿	宋詩合辟	清百家絕句	蒙求標題詠	金城白湯集	日本詠物詩
同隨筆	同七部集 <small>小本</small>	同二編	同三編	同四編	同五編	也有翁鷄 <small>合本</small>	同前編	同後編	同續編	同拾遺	誹諧百人一首
五	一	一	一	一	一	一	一	三	一	一	三

醫書之部	醫家千字文	冢田物
積聚編	痘疹妙藥集	冢註周易
備考方	妙藥手引草	同正文
提耳談	易書之部	同毛詩
溫疫論	增補上筮盲節	同正文
藥品考	同文政再板	同六記
古方通覽	同增續	同老子
方書摘要	同大全	左傳增註
經穴秘授	同極秘	孟子斷
醫事古言	同卦象解	登錦行
吐方撮要	易道早合点	作詩質的
的治療方	人相早合点	江尾往還蹤
		目二

物品識名	佛書之部	論語釋疑考
同拾遺	歡迎應化畧諺解	大峯文集
蘭藥鏡原	宗門畧列祖傳	滑川談
醫學生堂雜話	金斯幾	隨意錄
內外要方	閑居忘草	天文曆學之部
同二編	圓戒琢磨訣	天文四星風雨考
同三編	圓光大師御傳略贊	天文候鑑
同四編	永平道元行狀圖	日用曆談
傷寒論持解	觀音施無畏圖	觀象圖說
宋板傷寒論	現生護念之圖	晴雨管規
同正文	菩薩戒童蒙談抄	晴雨考
本朝水種方	唐士談語	年名出板

手本物之部	獲山詩哥帖	正面摺之部
長雄書札集	同乞巧帖	王由敦寸珍孝經
長松貴札帖	同年中帖	漢魏隸書帖
空洞書翰	同尺一集	九疑山碑
大橋遺帖	同千字文	郭有道碑
同改年帖	同書通案文	義之周府君碑
同今川狀	同書札法帖	李邕沙羅樹碑
同池凍帖	同嵯峨名所	渤海藏真帖
同書用集	同四季かゝ文	東坡自我帖
同當用集	同四季文集	同大江帖
同書札集	同江戸川用文	同歸去來詩帖
同新消息	同筆用集	董其昌天馬賦

同初學手本	同私用集	同衆鳥帖
同かか手本	同清風帖	同秣陵帖
同庭訓往來	二節詩哥撒英	道風草書帖
同風月往來	定家朗詠	信海三十六歌仙
同明衡往來	行成朗詠	陋室銘
同商賣往來	琴曲桃の宴	草木性譜
同江戸往來	箏曲大意抄	草木有毒圖說
同江戸名所	同ニッ輪入	草木有毒圖說
御家書札文海		立花當用集
同當時用文章	煎茶早指南	諸禮大學
同永代用文章		同上紙
同早速千字文	神術極秘卷	十躰千字文

石刻法帖之部	夫子廟堂碑	一	北齋漫畫	三	神事行燈	一
	朱子風雪帖	一	北齋畫譜	三	同二編	一
	宋七君子法帖	一	同上紙	一	初學畫手本	一
	歐陽詢九成宮	一	一筆畫譜	一	福善齋畫譜	五
	子昂要羅帖	一	西筆畫譜	一	武勇魁圖會	一
	同羊公帖	一	同上紙	一	同二編	一
	徂來大曆帖	一	英勇畫譜	一	算法之部	
	廣澤樂得帖	一	道中畫譜	一	本朝算鑑	三
	米元章天馬賦	一	浮世畫譜	一	開式新法	二
			同上紙	一	玉積通考	三
			同二編	一	點竄指南錄	三

繪本之部	繪本新山科	二	同上紙	同二編	三
	同庭訓往來	三	珖林漫畫	同三編	三
	同女今川	一	蕙齋鹿畫	同四編	三
	同彩色入	一	同二編	同五編	三
	同大江山	一	同三編	周脾算經圖解	五
	同彩色入	二	同四編	同國字解	二
	同曾我物語	一	同五編	算法工夫之錦	三
	同彩色入	一	北溪漫畫	同發隱錄	一
	同英分勇者	一	北雲漫畫	開運の巻	一
	同彩色入	二	同上紙	萬室大通考	一
			文鳳鹿畫	八木龍の巻	一
			同上紙		

字引節用之部

將碁之部

百人首之部

滿字節用錦字選	一	將碁道標	一	棲鳳百人	一
同中紙	一	同觀手	一	同上紙	一
同上紙	一	同金襖	一	蓬萊百人	一
早字節用集	一	同鷲爪	一	同上紙	一
同上紙	一	同定跡	二	吾妻百人	一
同大全	一	同連珠	二	同上紙	一
同上紙	一	同名家友	一	錦葉百人	一
同真字附	一	同古今集	一	同上紙	一
同上紙	一	同相掛集	二	麗玉百人	一
四聲節用集	一	同指南車	一	同上紙	一
同上紙	一	同百番笈	一	今樣百人	一

手紙早引集

同自在

同上紙

永樂古狀揃	一	渡世肝要記	二	女今川貞操鑑	一
同上紙	一	同二編	二	同上紙	一
同假名附	一	碁經之部			
同上紙	一	碁經奕範	二	東穗錄	二
初學古狀揃	一	同奕筌	二	同二編	二
同上紙	一	碁立手談	一	彼此合府	二
同假名附	一			延壽養生談	一
同上紙	一	大日本國郡全圖	二	養生要論	一

東都書物問屋

尾州名古屋本町通七丁目
江戸日本橋通本銀町二丁目
濃州大垣本町

永樂屋東四郎
同出店
同出店

266
300

